

第二反抗経験についての一研究

太成学院大学
小高 恵

1

問題

青年期に入ると、青年は親や年長者との間で葛藤が生じやすくなる。この時期、青年は自己に関心を強く向けるようになり、自己の独自性、自律性の欲求が高まり、自分のことは自身で決定したいと考えるようになる。このような心理的自立の過程で反抗期が生じるとされてきた。



反抗は、必然的に現れるというよりは、親子の関係性により生じるのでは？

2

反抗が生じるのは、青年の自律欲求に家族システムが対応できていないのでは？
(白井, 1997)

分離モデル

組み替えモデル

両親の過保護的養育態度が第二反抗を促進し、両親の養育的養育態度が第二反抗を抑制する (杉山・長谷川, 2013)。



組み替えモデルを支持

3

反抗の形態

親から離れる反抗

親を無視するまたは親と話をしない

親を避けて部屋に閉じこもる

親に会いたくなくて外出する
または家出する

親に向かう反抗

親に口答えする

親にイライラして物にあたる

親に対して暴力を振るう

Figure1 反抗の形態 (小澤, 1998)

4

須崎（2008）の研究

目に見える反抗
(反抗行動)心の中での反抗
(反抗感情)

野村（2014）の研究

親子の情緒的関係性と親子の実際の交流の程度が反抗的な感情の生起や反抗的行動の表出に与える影響を検討している。

親との実際の交流



情緒的関係性が良好



反抗感情の生起や反抗行動の表出の抑制

5

本研究の仮説

親の養育態度



目に見える反抗

心の中での反抗

自分の中に
押し込めている

その後の親子関係に影響を及ぼすのでは？

6

本研究では、中学生の頃の母親との関係に着目し、その頃の青年の反抗経験の程度が母親の養育態度がどのように関係しているのか、また現在の青年の母親への態度・行動にどのような影響を及ぼしているのかということについて明らかにする。

今回、母親に焦点を当てた理由として、江上・田中（2013）は反抗の対象として母親が最もなりやすいことを報告していることや、我が国の母親は子どもとの関係性がより強い（柏木, 2011）ということから母親と青年との関係に焦点を当てることにした。

7

方法

調査対象者：大学生102名（男子34名，女子68名）平均年齢20.1歳(SD=1.38)。**調査時期**：2018年7月。**倫理的配慮**：調査を始める前に個人情報についてはプライバシーを尊重し、関連法規を遵守することを説明し、調査参加に承諾を得た者に回答してもらっている。**測定尺度**：①小澤(1998)と須崎(2008)を元に作成した親への反抗に関する項目15項目を用いた。②辻岡・山本(1976)，遠山(2005)，藤田・岡本(2009)の親子関係尺度を参考に作成した中学3年生の頃の母の養育態度に関する15項目を用いた。③小高(2000)が作成した親-青年関係尺度，5尺度25項目を用いた。評価はいずれの尺度も「当てはまらない」～「当てはまる」の4件法である。**分析手続き**：(1)反抗に関する15項目について因子数を2つと定め，主因子法により因子分析を行い，その後プロマックス回転を行った。(2)母の養育態度に関する15項目について，因子数を3つと定め，主因子法により因子分析を行い，その後プロマックス回転を行った。(3)親-青年関係25項目について因子数5つと定め主因子法により因子分析を行い，その後プロマックス回転を行った。

8

(4) 上記で得られた因子パタンの結果を元に下位尺度(小包)を構成した。(5) 中学生の頃の反抗と母の養育態度がどのように関連しているのか、またそれが現在の母との関係にどのように影響を与えているのかを検討するために、上記で作成した下位尺度(小包)を観測変数として用いて、SEMによる男女の2集団の同時分析を行った。その際、過去の母の養育態度と青年の反抗経験とのモデル(モデル1)と過去の反抗経験が現在の母-青年関係に及ぼす影響(モデル2)の2つのモデルを作成した(Figure1)。十分なレベルの適合度を追求するために、それぞれのモデルの男女の修正指数を参考にしてパスを順次増やした。モデルの適合度については、Mulaik (2010)やHu & Bentler(1999)、清水・三保・紺田・青木(2014)を参考にして、CFI (>.95)、RMSEA (<.05)、SRMR(<.08)という適合度指標をモデル採択のための基準とした。なお、以上の分析はSPSS26とAMOS26を用いて行った。

9

本研究の概要

それぞれの尺度を因子分析

小包みを作成

モデル1とモデル2の分析

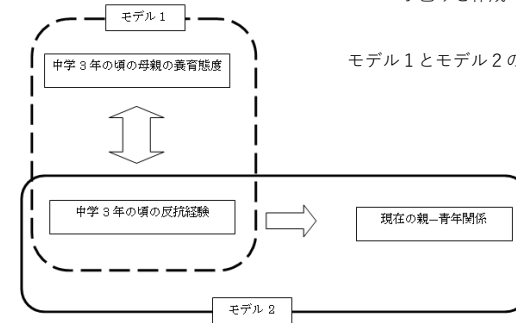


Figure2 本分析の概要

10

結果

1.母親への反抗についての因子分析

Table1 母への反抗についての因子パターン値

小包 ³⁾	表出的反抗		内面的反抗	
	1	2	Mean	SD
表出1 Q30 母に激怒することがあった。	0.851	-0.098	2.30	1.18
表出2 Q18 母にひどい言葉を浴びせたことがあった。	0.847	0.004	2.20	1.13
表出2 Q06 母に口答えをしたことがあった。	0.804	-0.249	3.28	0.95
表出2 Q12 母の首輪に置が立ち、周りのものに八つ当たりすることがあった。	0.689	0.012	2.40	1.07
表出1 Q24 母に物を投げたことがあった。	0.586	0.102	1.52	0.97
表出1 Q17 母のことを無視することがあった。	0.539	0.307	2.15	1.13
内面1 Q22 母を尊敬できなかった。	-0.172	0.908	1.69	0.84
内面2 Q10 母の嫌なところばかり目についていた。	-0.076	0.775	1.94	0.90
内面2 Q16 母を心の中で見下していた。	-0.019	0.727	1.68	0.91
内面2 Q29 母と会話をすることを避けていた。	0.117	0.643	1.67	0.88
内面1 Q04 母の考えは古いと思っていた。	-0.090	0.493	2.24	0.94
内面1 Q05 母を避けて、家に帰るのが遅くなったことがあった。	0.287	0.474	1.62	1.00
Q11 母から注意された時、聞いていないふりをした。	0.392	0.379	2.29	0.97
Q23 母を避けて、別の部屋に移動することがあった。	0.364	0.314	2.49	1.17
Q28 母の言うことにおかしなことがあると許せなかった。	0.262	0.343	2.40	0.99

因子間相関 0.661

11

2.母親の養育態度についての因子分析

Table2 母の養育態度の因子パターン値

小包 ³⁾	受容			自律		統制	
	1	2	3	Mean	SD		
受容1 Q19 母はいつも私のことを見守ってくれた。	0.678	0.042	0.017	3.42	0.62		
受容2 Q07 母は私に色々な話をしてくれた。	0.666	0.043	0.129	3.15	0.87		
受容2 Q25 母はどのようなことがあっても私の味方であった。	0.620	0.154	0.053	3.28	0.81		
受容1 Q01 母は私のことをきちんと理解しようと努力してくれた。	0.562	-0.022	-0.094	3.30	0.67		
受容1 Q13 母は私の意見をよく聞いてくれた。	0.556	0.258	0.001	3.08	0.84		
自律1 Q03 母は私に自分が責任を取れる範囲内で好きなことをやらせてくれた。	-0.066	0.858	-0.067	3.28	0.81		
自律2 Q09 母は私がやりたいと思ったことは何でもやらせてくれた。	0.182	0.631	-0.075	3.08	0.82		
自律2 Q15 母は何かを決めるときに私の意見を尊重してくれた。	0.273	0.510	-0.024	3.25	0.67		
自律1 Q21 母は私に自分のことは自分で決めることを求めた。	0.051	0.487	0.109	2.90	0.78		
自律2 Q27 母は私の行きたい所ならどこへでも何も聞かずに行かせてくれた。	0.185	0.219	0.017	2.22	0.92		
統制1 Q14 母は私を母の思い通りにしようとした。	-0.046	-0.087	0.717	1.94	0.93		
統制2 Q20 母は私の行動を全て把握しようとした。	0.238	-0.051	0.638	2.34	1.02		
統制2 Q26 母は私の性格を改めさせようとした。	-0.308	0.274	0.617	2.09	1.00		
統制1 Q02 母は私が口答えをするたびに怒ることが多かった。	-0.238	0.071	0.574	2.78	1.04		
統制1 Q08 母は規則やルールを守ることに厳しかった。	0.360	-0.175	0.506	2.84	0.94		
因子間相関	第2因子	0.481					
	第3因子	-0.243	-0.351				

12

3. 青年の母親への態度についての因子分析

Table3 青年の母への態度の因子パターン値

小変種	1	2	3	4	5	Mean	SD
情愛1 Q24 愛記、自分のあつたあつたを覚えていることである。	0.800	0.102	-0.036	-0.132	-0.056	3.54	0.66
情愛2 Q14 母に抱かれていたのは懐かしい。	0.794	0.104	-0.104	0.047	-0.008	3.63	0.67
情愛3 Q04 母を思い出せば涙が止まらない。	0.782	-0.068	-0.094	0.048	-0.077	3.50	0.64
情愛4 Q06 母に抱かれて感動が忘れられない。	0.732	-0.072	0.118	-0.044	0.116	3.73	0.53
対立1 Q22 私の態度、生き方などから見てとらえられることである。	0.159	0.802	0.197	-0.009	0.079	2.30	1.02
対立2 Q17 母は理解はできないが、その気持ち、行為には共感がある。	-0.039	0.770	-0.145	0.256	-0.287	2.12	1.04
対立3 Q12 私の態度などについて理解がある。	0.135	0.680	0.144	-0.108	-0.122	1.87	0.75
対立4 Q02 私の意見や考え方を母に伝える、やらせようとする。	-0.258	0.882	-0.237	0.215	0.098	2.78	1.04
対立5 Q07 母の前向きな態度に賛同している。	0.008	0.800	0.166	-0.260	0.123	2.10	0.84
従順1 Q23 母は私の生活に干渉している。	-0.229	0.036	0.780	0.050	0.047	1.90	0.83
従順2 Q08 母に知らぬがごとく、行動している。	-0.054	0.141	0.802	0.152	-0.095	1.84	0.90
従順3 Q18 母の期待に応えようとしている。	0.009	0.148	0.817	0.176	0.101	2.41	0.87
従順4 Q10 母の期待に応えようとしている。	0.049	-0.140	0.670	0.072	0.036	2.60	0.78
従順5 Q02 母の意見に従う。	-0.110	0.252	-0.824	0.261	0.218	3.51	0.66
影響1 Q11 私の態度は、母の態度に反映している。	-0.088	0.115	0.130	0.700	-0.055	2.80	0.84
影響2 Q21 母によって私の人生が決められた。	0.020	-0.198	0.007	0.880	0.195	2.95	0.80
影響3 Q03 私の意見や考え方を母に伝える、やらせようとする。	-0.035	0.276	0.176	0.684	-0.124	2.54	0.94
影響4 Q16 母の態度が、私の態度に反映している。	0.277	-0.114	0.048	0.470	-0.272	3.28	0.75
影響5 Q06 母の意見や考え方を母に伝える、やらせようとする。	0.272	0.100	0.212	0.680	0.309	3.12	0.88
一人1 Q01 母は私の意見や考え方を母に伝える、やらせようとする。	0.047	-0.078	0.136	0.870	0.137	3.05	0.87
一人2 Q19 私の意見や考え方を母に伝える、やらせようとする。	0.227	-0.055	-0.136	0.807	0.096	3.67	0.73
一人3 Q25 母は私の人生に干渉している。	-0.092	-0.133	0.070	-0.068	0.887	3.15	0.81
一人4 Q10 私の意見や考え方を母に伝える、やらせようとする。	0.121	0.224	-0.260	-0.183	0.808	3.48	0.79
一人5 Q15 母は私の人生に干渉している。	0.109	-0.011	-0.095	0.279	0.849	3.46	0.67
一人6 Q05 母は私の人生に干渉している。	0.050	-0.163	0.191	0.195	0.477	3.52	0.83
因子パターン	0.466						
因子パターン	-0.226	0.140					
因子パターン	0.379	-0.389	0.094				
因子パターン	0.357	-0.104	-0.187	0.252			

情愛の絆
対立
従順
ポジティブな影響
一人の人間(客観)

13

Table4 反抗経験と母親の養育態度との関連 (推定値)

	男子				女子					
	非標準化推定値	標準化推定値	標準化推定値	p	非標準化推定値	標準化推定値	標準化推定値	p		
pcmean変容2	<---	F変容	1.000	0.803	1.000	0.804				
pcmean変容1	<---	F変容	0.869	0.110	0.869	0.110	0.844	***		
pcmean統制2	<---	F統制	1.000	0.815	1.000	0.812				
測	<---	F統制	0.628	0.122	0.648	0.122	0.647	***		
定	<---	F自律	1.000	0.958	1.000	0.973				
モ	<---	F自律	0.656	0.118	0.557	0.118	0.645	***		
デ	<---	F表出反抗	1.000	0.810	1.000	0.816				
ル	<---	F表出反抗	1.254	0.132	0.973	0.132	0.974	***		
pcmean内面反抗2	<---	F内面反抗	1.000	0.900	1.000	0.895				
pcmean内面反抗1	<---	F内面反抗	0.873	0.088	0.822	0.088	0.814	***		
pcmean統制1	<---	F自律	-0.313	0.189	-0.234	0.189	-0.297	**		
F変容	<-->	F統制	-0.088	0.087	-0.216	n.s.	-0.063	0.058	-0.159	n.s.
F自律	<-->	F自律	0.229	0.073	0.175	**	0.212	0.060	0.569	***
四	<-->	F表出反抗	-0.083	0.077	-0.221	n.s.	-0.134	0.058	-0.344	**
子	<-->	F内面反抗	-0.231	0.087	-0.637	*	-0.228	0.062	-0.645	**
間	<-->	F自律	-0.144	0.082	-0.362	†	-0.050	0.066	-0.103	n.s.
共	<-->	F表出反抗	0.295	0.114	0.580	**	0.262	0.079	0.525	**
分	<-->	F内面反抗	-0.208	0.078	-0.589	**	-0.160	0.062	-0.372	**
散	<-->	F内面反抗	0.352	0.111	0.780	**	0.284	0.076	0.632	***
F統制	<-->	F内面反抗	0.347	0.116	0.711	**	0.224	0.071	0.492	**
F自律	<-->	F表出反抗	-0.086	0.070	-0.234	n.s.	-0.008	0.061	-0.016	n.s.
独自性関	<-->	e_pc変容1	-0.009	0.036	-0.056	n.s.	0.072	0.026	0.451	**
共分散	<-->	e_pc統制1	0.010	0.038	0.052	n.s.	0.062	0.028	0.333	**

*: p<.05, **: p<.01, ***: p<.001, n.s.: p>.1

15

4. 第二反抗経験と母親の養育態度との関連

行 # 番号 1 (分散拘束なし)

Standardized RMR = .0779

誤差分散拘束

Standardized RMR = .0784

全部の分散を拘束

Standardized RMR = .0827

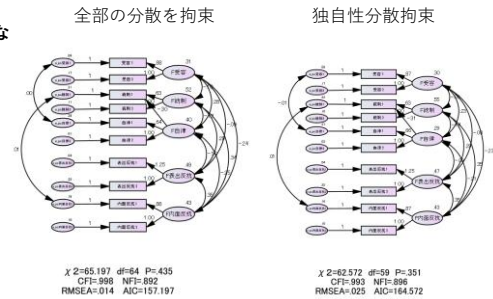


Figure3 第二反抗経験と母親の養育態度との関連図

14

5. 現在の親-青年関係に及ぼす第二反抗経験

行 # 番号 4 (全部の分散拘束)

Standardized RMR = .0977

行 # 番号 5 (誤差分散拘束)

Standardized RMR = .0871

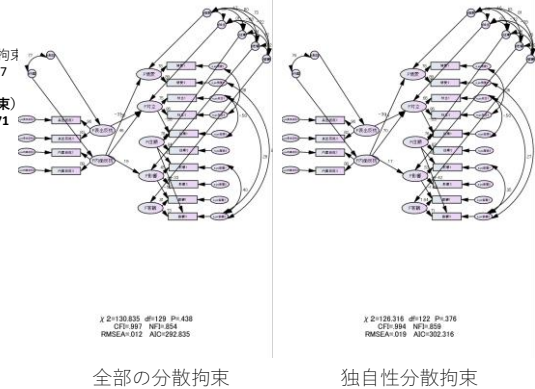


Figure4 第二反抗経験と母-青年関係との関連図

16

Table5 反抗経験と青年の母への態度との関連 (推定値)

変数	説明変数	男子			女子				
		標準化係数	標準誤差	t	標準化係数	標準誤差	t		
母のF対立	<-> F内面反抗	0.093	0.251	0.344	A.S.	0.537	0.121	0.550	***
母のF影響	<-> F内面反抗	0.117	0.093	0.174	A.S.	-0.503	0.114	-0.686	***
母のF情愛	<-> F内面反抗	-0.190	0.089	-0.302	*	-0.364	0.096	-0.515	***
母のF対立	<-> F内面反抗	0.492	0.196	0.698	*	0.361	0.143	0.328	*
母のF内面反抗2	<-> F内面反抗	1	0	0.822	A.S.	1	0	0.828	A.S.
母のF内面反抗1	<-> F内面反抗	1.22	0.122	0.959	***	1.22	0.122	0.961	***
母のF内面反抗2	<-> F内面反抗	1	0	0.883	A.S.	1	0	0.880	A.S.
母のF内面反抗1	<-> F内面反抗	0.931	0.095	0.862	*	0.931	0.095	0.869	***
母のF情愛1	<-> F情愛	1	0	0.778	A.S.	1	0	0.809	A.S.
母のF情愛2	<-> F情愛	1.199	0.231	0.889	***	1.252	0.16	0.914	***
母のF対立1	<-> F対立	1	0	0.682	A.S.	1	0	0.600	A.S.
母のF対立2	<-> F対立	1.528	0.346	0.865	***	0.969	0.12	0.809	***
母のF影響1	<-> F影響	1	0	0.756	A.S.	1	0	0.856	A.S.
母のF影響2	<-> F影響	1.018	0.222	0.82	***	1.264	0.177	0.904	***
母のF影響1	<-> F影響	1	0	0.520	A.S.	1	0	0.610	A.S.
母のF影響2	<-> F影響	1.265	0.372	0.866	***	1.455	0.248	0.907	***
母のF影響1	<-> F影響	1	0	1.038	A.S.	1	0	0.793	A.S.
母のF影響2	<-> F影響	0.431	0.263	0.768	A.S.	0.788	0.266	0.624	*
母のF影響1	<-> F影響	-0.478	0.204	-0.42	*	-0.330	0.112	-0.343	**
母のF影響2	<-> F影響	0.680	0.277	0.398	*	0.253	0.143	0.188	*
母のF影響1	<-> F影響	0.774	0.211	1.42	A.S.	0.158	0.165	0.128	A.S.
母のF影響2	<-> F影響	-0.048	0.193	-0.034	A.S.	0.203	0.088	-0.210	*
母のF対立	<-> F内面	0.360	0.109	0.764	**	0.279	0.079	0.611	***
母のF情愛	<-> F対立	-0.051	0.020	-0.521	*	-0.072	0.021	-0.447	*
母のF影響	<-> F影響	0.029	0.039	0.161	A.S.	-0.041	0.031	-0.197	A.S.
母のF情愛	<-> F影響	0.135	0.056	0.834	*	0.079	0.028	0.616	**
母のF情愛	<-> F影響	0.271	0.194	0.808	A.S.	0.027	0.020	0.161	A.S.
母のF対立	<-> F影響	0.000	0.044	0.000	A.S.	0.071	0.040	0.312	*
母のF対立	<-> F影響	-0.080	0.040	-0.719	*	-0.066	0.030	-0.462	*
母のF対立	<-> F影響	-0.181	0.130	-0.794	A.S.	-0.019	0.026	-0.209	A.S.
母のF影響	<-> F影響	0.071	0.050	0.359	A.S.	0.059	0.020	0.326	*
母のF影響	<-> F影響	0.107	0.132	0.258	A.S.	0.016	0.041	0.068	A.S.
母のF影響	<-> F影響	0.329	0.265	0.89	A.S.	0.039	0.032	0.262	A.S.
母のF影響2	<-> F影響	0.020	0.024	0.784	**	0.024	0.020	0.268	A.S.
母のF影響1	<-> F影響	0.066	0.033	0.347	*	0.013	0.027	0.069	A.S.
母のF影響2	<-> F影響	-0.110	0.038	-0.556	**	0.063	0.031	0.318	*
母のF影響1	<-> F影響	0.008	0.031	0.064	A.S.	0.040	0.023	0.264	*
母のF影響2	<-> F影響	0.048	0.028	0.269	*	0.065	0.028	0.361	*

17

考察

本分析の結果、反抗の形態は表出的なものと同内的なもの2つの種類があることが明らかになった。

また過去の親子関係は「受容」、「統制」、「自律性」の3つの概念が存在しており、これについては従来の結果と同じ結果である。

さらに、現在の親-青年関係については負荷する項目が若干異なっているが、これまでの研究と同じ因子が得られた。

次に上記で得られた関連図をFigure5に示す

18

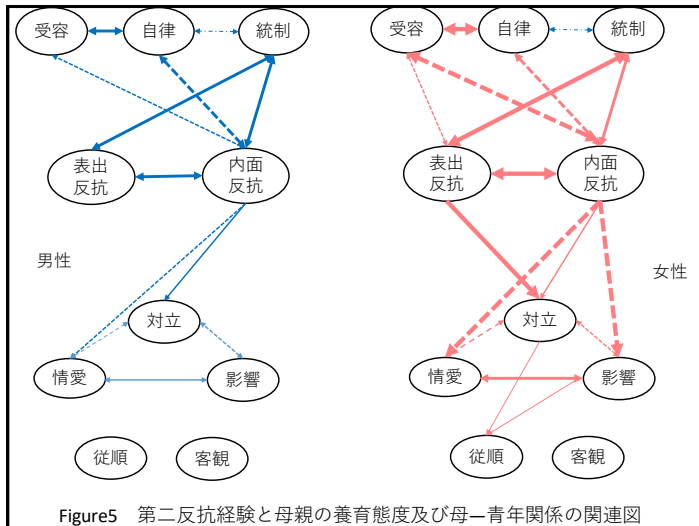


Figure5 第二反抗経験と母親の養育態度及び母-青年関係の関連図

19

反抗経験は親の養育態度と関連しており、統制的な養育は青年の反抗を生起させ、受容的で自律性を重んじた養育態度は内面的な反抗を抑制していると思われる。

反抗経験は、現在の親子関係にも影響を及ぼしており、内面的な反抗は、情愛的な絆を弱くし、親との対立を生み出す可能性があることが示唆される。

男性よりも女性の方が反抗経験が親の養育態度や現在の親-青年関係と関連しており、母子関係の影響の受け方に性差があることが窺われる。

20

引用文献

- 江上園子・田中優子(2013). 第二反抗期に対する認識と自我同一性との関連 愛媛大学教育学部紀要, **60**, 17-24.
- 野村有輝(2014). 親子の情緒的関係性と実際の交流からみた反抗期についての一考察 神戸大学発達・臨床心理学研究, **13**, 32-37.
- 小澤一仁(1998). 親への反抗 落合良行(編) 中学二年生の心理 大日本図書
- 白井利明(1997). 青年心理学の観点からみた「第二反抗期」 心理科学, **19**, 9-24.
- 須崎暁世(2008). 現代の青年における第二反抗期 神戸大学発達科学部人間形成学科卒業論文(未刊行)
- 辻岡美延・山本吉廣(1976). 親子関係診断尺度 E I C A の作成 - 因子的真实性の原理による項目分析 - 関西大学社会学部紀要, **7**, 1-14.
- 遠山孝司(2005). 回想的な方法による親と教師の威厳ある養育・指導態度尺度の作成 東海心理学研究, **1**, 21-29.
- 藤田ミナ・岡本祐子(2009). 青年期における母娘関係とアイデンティティとの関連 広島大学大学院心理臨床教育研究センター紀要, **8**, 121-132.
- 小高 恵(2000). 親-青年関係尺度の作成の試み 南大阪大学紀要, **3**, 87-96.
- Mulaik, S. A. (2010). *Linear causal modeling with structural equations*. New York, NY: Chapman & Hall/CRC.
- Hu, L., & Bentler, P.M. (1999). Cutoff criteria for fit indexes in covariance structure analysis: Conventional criteria versus new alternatives. *Structural Equation Modeling*, **6**, 1-55.
- 清水和秋・三保紀裕・紺田広明・青木貴寛(2014). SEM適合度指標と適合度の報告(1) - 心理学研究と教育心理学研究を対象として - 日本心理学会第78回大会発表論文集, 521.